

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿

片山晴賢

『下学集』二巻は書名を『論語』憲問篇の「下学而達」からとり、編者は自序に「東麓破衲」とあるのみで、京都五山の僧であろうと推定されている。虎関師錬の『聚分韻略』の影響を受け、『倭玉篇』『節用集』とともに室町時代に編纂された代表的な辞書であると言われている。本書の編纂に関係のあった本邦先行の作品の一つに『庭訓往来』等の往来物や和漢の典籍、さらに『聚分韻略』から分類の方法・意義分類を学びとったとも言われている。これらの通説には異論はない。本邦の辞書編纂には古くから中国の韻書・類書の受容によって発展して来たと言われているが、『下学集』についての典拠研究は進んでいないのが現状であろう。私は敢えて『下学集』典拠の中の漢籍について研究・調査を試みるものである。

本邦の中世にあたる中国では次のような辞書が編纂されている。それは、

韻書 元 黄公紹 『古今韻会举要』二〇巻・元 陰時夫 『韻府群玉』二〇巻・明 楽韻鳳らの勅撰 『洪武正韻』十六巻・明 方日升 『古今韻会举要小補』三〇巻。

訓詁 明 朱謀埜 『駢雅』七巻・明 張萱 『彙雅』二〇巻・明 方以知 『通雅』五十二巻。

文字 明 梅膺祚 『字彙』十二巻。

類書 宋・元 『事文類聚』各集・明 勅撰 『永樂大典』

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

などが編纂されている。この外に宋代から明代にかけて大小の辞書が編纂されて本邦に渡来し、これらは中世から近世にかけて書写されたり、また、再刻・和刻本が刊行されている。^(注二)さらにこれらの中国の辞書の流入によって本邦辞書編纂の気運を刺戟して、前述した中世の代表的な『下学集』『和玉篇』『節用集』の三書を製作せしめたことは疑うことの出来ぬ事実であろう。

本稿では中国から渡来し元和三年版『下学集』の排列に類似している『碎金』という百科用語集というべき辞書に注目して論を進めてゆきたい。この『碎金』上下二巻は撰者・年代未詳であつて、相当古くから各種のものが刊行され、明代はその極に達したと言われている。^(注二)宋王应麟『小学紺珠』等の名数の類書に類似した辞書である。この僅か三十七帖の小型の辞書に着目した理由は、元和三年版『下学集』の分類・排列に近似している点である。

『碎金』の意義分類は、

- | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ① 乾象 | ② 坤儀 | ③ 州郡 | ④ 帝王 | ⑤ 品官 | ⑥ 司局 | ⑦ 人倫 | ⑧ 三教 | ⑨ 五常 | ⑩ 走獸 |
| ⑪ 飛禽 | ⑫ 水族 | ⑬ 蟲豸 | ⑭ 書籍 | ⑮ 易卦 | ⑯ 算法 | ⑰ 服飾 | ⑱ 綵帛 | ⑲ 彩色 | ⑳ 蠶織 |
| ㉑ 農器 | ㉒ 百穀 | ㉓ 菜蔬 | ㉔ 食餌 | ㉕ 五味 | ㉖ 香藥 | ㉗ 花果 | ㉘ 竹木 | ㉙ 藝業 | ㉚ 工具 |
| ㉛ 屋宅 | ㉜ 舟船 | ㉝ 鞍乘 | ㉞ 家生 | ㉟ 兵革 | ㊱ 漁獵 | ㊲ 技樂 | ㊳ 珍寶 | ㊴ 身體 | ㊵ 疾病 |
| ㊶ 争訟 | ㊷ 應用 | | | | | | | | |

の四十二篇となっている。いま両者を対照させその大略を示すと次の如くである。（『下学集』の各門の下に『碎金』の篇番号を示す。）

- | | | | | | |
|---|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------|---------------|
| 天地門 ① ② ③ | 時節門 ② ③⑦ | 神祇門 | 人倫門 ④ ⑦ | 官位門 ⑤ | 人名門 |
| 家屋門 ③① | 気形門 ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ | 支体門 ③⑨ | 態芸門 | 絹布門 ⑱ ⑲ | 飲食門 ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ |
| 器財門 ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ | 草木門 ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ | 彩色門 ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ | 数量門 ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ | 言辞門 | |

疊字門

となる。次稿においてはさらなる精査を実施し発表したい。「乾象篇」でその内容をみると、

〔両儀〕天地〔附曜〕日太陽月陰〔三光〕日月星辰〔五星〕東方歲星木南方熒惑星火西方太白星金北方辰星水中央鎮星土（以下略）
と〔 〕内の惣名は以下

十一曜 七政 六氣 二十八宿 四時 八節 十干 十二支 十二時 六十甲子 二十四氣 節序 五氣 時刻 氣候
天文

となっている。これは最初の部分に惣名を示し、次にこれに類する項目を列挙し、注文は平・仄、別名を簡単に入れて、故実の説明は最少にして簡潔な辞書となっていて、少なくとも幼学の使用を目的としたものではない。

さらに『碎金』と元和三年版『下学集』『時節門』の排列を対照させると、『時節門』の項目番号は対照表の数字である

碎金

時節門

〔四時〕春夏秋冬（乾象）

1 春 2 夏 3 秋 4 冬

〔六律〕太簇棹正姑洗三蕤賓五夷則七無射九黃鐘十一（技楽）

5 太簇 24 姑洗 33 蕤賓 41 夷則 46 無射 51 黃鐘

〔六呂〕夾鐘一中呂四林鐘六南呂八應鐘十大呂十二（技楽）

18 夾鐘 29 仲呂 39 林鐘 45 南呂 49 應鐘 56 大呂

〔節序〕元日人日元宵上元春社中和花朝寒食上巳入梅端午三

14 人日 17 元宵 20 花朝 28 上巳 38 端午 42 文月（七夕） 48 重

伏七夕中元秋社中秋重陽小春下元冬節臘日除夜守歲（乾象）

陽 57 臘月 59 除夜

〔十干〕甲乙屬木丙丁屬火戊己屬土庚辛屬金壬癸屬水（乾象）

62 甲 63 乙 64 丙 65 丁 66 戊 67 己 68 庚 69 辛 70 壬 71 癸

〔十二支〕子鼠丑牛寅虎卯兔辰龍巳蛇午馬未羊申猴酉雞戌狗

72 子 73 丑 74 寅 75 卯 76 辰 77 巳 78 午 79 未 80 申 81 酉 82

亥猪（乾象）

戌 83 亥

〔十二時〕半夜子雞鳴丑平旦寅日出卯食時辰禺中巳日中午日

84 夜半 85 雞鳴 86 平旦 87 日出 88 食時 89 禺中 90 日中 91

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

昧未晡時申日入酉黄昏戌人定亥（乾象）

日昧 92 晡時 93 黄昏 94 人定

〔天文〕天河星斗霄漢煙靄雲霞霧露虹霓閃電雷霆霹靂冰雹薄霰

95 日蝕 96 月蝕

雷熒災變日蝕月蝕日暈月珥彗孛休咎符讖識兆妖訛怪異魍魎

魍魎禍崇精靈旱魃羅魃（乾象）

〔時刻〕歲節晝夜旦暮朝夕晦朔弦望早晏昏曉辰日午晚衙黃

97 望 98 晨 102 曉

昏發更發雷去備雷去更漏攢點（乾象）

〔十一曜〕日月五星羅喉計都紫炁月孛（乾象）

125 狗尾（計都） 126 黃幡（羅喉）

〔二十四氣〕立春正月節雨水正月中驚蟄二月節春分二月中清

139 二十四氣 140 立春 141 雨水 142 驚蟄 143 春分 144 清明 145 穀雨

明三月節穀雨三月中立夏四月節小滿四月中芒種五月節夏至

146 立夏 147 小滿 148 芒種 149 夏至 150 小暑 151 大暑 152 立秋 153

五月中小暑六月節大暑六月中立秋七月節處暑上七月上中白露

處暑 154 白露 155 秋分 156 寒露 157 霜降 158 立冬 159 小雪 160 大

八月節秋分八月中寒露九月節霜降九月中立冬十月節小雪十

雪 161 冬至 162 小寒 163 大寒

月中大雪十一月節冬至十一月中小寒十二月節大寒十二月中

（乾象）

となり、冒頭部の「六律」「六呂」は技楽篇からであり、その他は『碎金』「乾象篇」と『下学集』「時節門」の項目と相対している。特に「四時」「十干」「十二支」「十二時」「二十四氣」の排列は相対しており、「二十四氣」になると注文も同一となっている。『下学集』の編者は『碎金』を参考に本邦の和訓（故実）の項目を適宜に挿入して排列したのではないかと推察される。「時節門」の1春から163大寒に到って多少のずれがあるが、これをみると『下学集』の排列は「連想に従って一定の秩序を保っている」と言われている解答の一つとなるのではないかと推察される。

次稿においては『碎金』の各篇と『下学集』の各門との排列を精査したものを示したい。さらに『下学集』の漢籍典拠

は『韻府群玉』に依拠することが大であると考^(注四)える。本稿では次稿を論ずるために『下学集』「時節門」の項目・注文とこれに關係する『韻府群玉』の出典とを対照させたものを附載することとした。対照表を作製するにあたり、『下学集』は元和三年版を、『韻府群玉』は近藤良一・佐藤武義・木村晟・片山晴賢編『韻府群玉』（古活字版）『古辞書抄物 韻府群玉・玉塵抄』一九九八年六月刊、大空社五冊本を使用した。（一）の1439右とは一冊目の439頁、右は同頁の一帖分の左右を示す）

注一 長澤規矩也編『和刻本類書集成』等に納られている類書・韻書を指す。

二、講座国語史 語彙史 大修館書店 昭四六年刊、吉田金彦氏「辞書の歴史」五〇四頁に『下学集』に影響を与えた辞書の一つに『碎金』を挙げられている。

三、叢書集成続編 第九冊 新文豊出版公司刊の『明本大字応用碎金』を使用した。

四、『韻府群玉』については大空社版の『解題』、および『校伽林学報』第四輯、拙稿「『下学集』「気形門」の漢籍典拠稿」を参照されたし。

附載『下学集』『韻府群玉』对照表〔一〕

下学集 時節門

- 1 春ハル 異名青帝東君青陽麗景セイテイ セイテイ レイケイ
- 2 夏ナツ 異名朱明三伏シュウ フツ
- 3 秋アキ 異名白藏商天ザウ
- 4 冬フユ 異名極時キョクシ
- 5 大簇ソク 正月
- 6 履端リンタン 正月 履一切之事 端故曰履端也ノハシラニ
- 7 肇歲テウサイ 正月也肇始也ハナリ
- 8 甫年ホ 正月也甫始也ハナリ
- 9 睦月ムツキ 正月也睦或作昵新春親類相依娛樂遊ナリ ハハニ ニニ ハハニ テモ
- 10 獻歲ケンサイ 正月也與獻同ナリ
- 11 陬月ムツキ 正月也
- 12 始和シクワ 正月也

韻府群玉

- 春 冒曆切(記)某日立(月令纂要)一年之計在於(詩)維莫之(莊) 與物爲 1 439 右
- 夏 春非中殷之(詩)四月維 4 331 左
- 秋 七由切(書)乃亦有秋(揚雄賦)秋踰踰趨踰貌 2 411 右
- 冬 都攻切(月令)天地閉塞而成(王莽傳)三皇象春五伯象(夜氣箴) 夜乃一日之 1 58 右
- 六律 (略) 太簇正月(略) 5 125 左
- 履端 一干始(左) 1 529 左
- 肇 始也正也(書)造區夏 3 289 左
- 甫 方矩切男子美稱又大(詩)魴鱖(韓奕) 3 139 左
- 睦 **說文**目順也(詩)親類以 5 51 左
- 獻 許建切**說文**宗廟犬名(周禮)賢能書(地官)禮九 4 216 右
- 陬 攝提貞干(騷)攝提斗柄也(東北隅謂正月也) 2 465 右
- 吉 居質切**說文**善也(書)動罔不(子孫其逢)(禮)正月之始和 5 106 右

- 13 解凍カイトウ 正月也
- 14 人日ジンニチ 正月七日也ナリ凡ツ每年正月一日ヲ曰ク雞ニ日ニ二日ニ云ク狗日ニ三日ニ云ク猪日ニ四日ニ云ク半日ニ五日ニ牛日ニ六日ニ馬日ニ七日ニ人日ニ八日ニ曰ク穀日ト見ル荆楚之歲時記ニ矣ニ或書曰ク人日以ニ七種ヲ作ル羔美食レ之則チ諸人病患クワン也
- 15 白馬ハクバ節會セチエ 正月七日於ニ禁中ニ行ク之ヲ或青馬アラム節會トモ共フ云ク馬陽獸ハノクタモノナリ也ハノ青春色也正月七日見レ青馬ヲ除ク年中邪氣ヲ從ヨリ天武天皇始ル也
- 16 踏歌タウカ 正月十四十六兩日於テ禁中ニ行ク之ヲ十四日ハ男踊歌ノ十六日ハ女踊歌ノ也ナリ男女歌ヲ視祝言ヲ而舞也ナリ
- 17 元宵ケンセウ 正月十五夜也
- 18 夾鐘クワシヤウ 二月
- 19 衣更着キサラギ 二月也此月餘寒猶フキヒシ嚴故ニ衣更着キヌサラニキル也
- 20 花朝クワチウ 二月也朝朝待ツ花故ヲ云ク花朝ヲ
- 21 美景ビケイ 二月也
- 22 惠風クイ 二月也

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

凍 多貢切（孟）無一餒之老（記）東風解一 45左

人日 北齊魏牧云一月爲雞二日狗三日猪四日羊五日牛六日馬七日一（史）古一貼人形於帳 595左

菜 人日競采七種一作羹 4185左

宵 思邀切說文夜也 262左

鐘 律名 夾一二月（略）164左

23 星鳥セイテウ 二月

24 姑洗コセン 三月也

25 弥生ヤヨイ 一切草葉芽至グテ此月ノ弥生故云弥生也ニヤフユニフ

26 桃浪トウラウ 三月

27 曲水キョク 三月二日也ナリ

28 上巳シ 初作メ三月三日之遊ノ時日適當ラトキタマ、アタル上巳ミミ

故至ニテ今呼ニテ此時ノ云フ上巳也ト

29 仲呂チウリョ 四月

30 麥秋バクシウ 四月

31 卯月ウ 此月卯花盛開故云卯月也ニクニフ

32 修景シユケイ 四月

33 蕤賓ズイヒン 五月

34 梅月バイ 五月又云タフサウ送梅月ノ此月送ラクリ尽梅子クス

故云ニ余也ト

35 星火セイクワ 五月

36 東井トウセイ 五月

37 皐月サツキ

38 端午タンゴ 初作メ五月五日之遊ノ時日適當ラキ當ルハシ端午ルハシ

午ム故至ニ今呼ニテ此時ノ云フ端午ト也支那ニハ此日ノ

六律（略）姑洗三月（略） 5 125左

續彌月 誕一厥一先生如達（生民） 5 143右

上巳 鄭國之俗——於溱洧之上秉蘭草祓除不祥○魏己後但用三日不

復用巳（沈約宋書） 3 70右

仲呂 二日夾鐘四月仲呂（略） 3 112右

麥秋 ——至○百穀以熟爲秋——以孟夏爲——（記月令） 2 411右

修景 南陸迎——（潘安仁） 3 387右

六律（略）蕤賓五月（略） 5 125左

吊屈原也

39 林鐘 六月

40 名越之祓 六月尽也夏秋交代之時候也

而夏火秋 金火与金相剋故越夏之名攘相剋之災故云名越之祓也

41 夷則 七月

42 文月 此月七夕諸人以詩歌之文獻於二星

或晒書篇以供星故云文月也

43 親月 此月諸人詣親墳墓故云親月也

44 孟蘭盆 七月十五日也梵孟蘭盆此云解倒懸言此日於冥府暫脫罪人之倒懸故云

解倒懸我朝聖武天皇天平五年始行之也

45 南呂 八月也又云葉月落葉時節故云也

46 無射 九月

47 長月 夜長時分故云也

48 重陽 九月九日也月令云九月九日月与日俱應陽數故云重陽此日採菊獻觀

音則壽命長遠也起於彭祖古事也

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

鐘 (略) 林一六月 (略) 1 64左

六律 (略) 夷則七月 (略) 5 125左

夷則 七月律名 5 341右

孟蘭盆 目蓮比丘見其亡母生餓鬼中不得食佛言七月十五日俱百味五果

着盆中供養十方佛然後得食目蓮佛行孝順者亦應奉—— 1 501左

六呂 (略) 南一十月 (略) 3 112右

六律 (略) 無射九月 (略) 5 125左

重陽 東坡云嶺南氣候不常菊開時節——十月菊始開乃與客——(志

林) 都城重九後一日冥賞号小——(歲時雜記) 菊花何太若遭此兩——

——(季詩) 2 174右

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

49 應鐘 十月

50 神無月 十月諸神皆集出雲大社故云神無

月也出雲國神有月云也

51 黄鐘 十一月

52 霜月 此月霜始降也

53 暢月 月令仲冬命之鴨月也

54 六呂 十一月

55 陽復 十一月

56 大呂 十二月

57 臘月 支那十二月之祭名臘故云臘月也

臘与臙同字也

58 師趨 十二月一年之終諸人事繁而不

暫居家雖師匠亦趨走故云師趨也

59 除夜 指臘月尽夜也此夜除旧年故云尔

追儺 節分夜於禁中殿上侍臣以桃弓葦

矢驅惡鬼謂之追儺也

61 百鬼夜行 節分夜也

62 甲 關逢

鐘 (略) 應—十月 (略) 164左

鐘 (略) 黄—十二月 (略) 164左

暢月 十月日—(纂要) 又良月(左) 又曰陽月(西京雜記) 又仲冬命之曰—(月令) 5143右

六呂 (略) 十二月大呂 (略) 3112右

臙臘 前武(紀) 令天下大酺五日—五日祠門戶比—〇—皆臘取禽獸以祭之名臙以立秋臘以十二月 5371左

甲 古狎切—歲名關逢關 5392左

77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63
巳 <small>シ</small>	辰 <small>チン</small>	卯 <small>ウ</small>	寅 <small>トウ</small>	丑 <small>ウシ</small>	子 <small>ネキ</small>	癸 <small>ミツノト</small>	壬 <small>ミツノヘ</small>	辛 <small>カンノト</small>	庚 <small>カンヘ</small>	己 <small>ツチノト</small>	戊 <small>ツチノヘ</small>	丁 <small>ヒノト</small>	丙 <small>ヒノヘ</small>	乙 <small>ツイト</small>
大荒落 <small>タイクワウラク</small>	執除 <small>シユチヨ</small>	單闕 <small>タンアツ</small>	攝提格 <small>セツタイカク</small>	赤奮若 <small>セキフンシヤク</small>	困敦 <small>コントン</small>	昭陽 <small>セウ</small>	玄默 <small>ゲンヨク</small>	重光 <small>チュウコウ</small>	上章 <small>シヤウ</small>	屠維 <small>チヨイ</small>	著雍 <small>チヨヨウ</small>	強圉 <small>キヤウギョ</small>	柔兆 <small>シユウテウ</small>	旃蒙 <small>センモウ</small>

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

巳	辰	卯	寅	丑	子	癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙
(爾雅) 歲在—曰大荒落 3 69左	植鄰切大歲在—曰執除 1 403右	歲在—曰單闕亦作亶 3 299右	寅歲名(爾雅) 5 269左	敕久切(爾雅) 歲在—曰赤奮若 3 415右	祖里切—歲名曰困敦 3 91右	居誅切歲名字苑曰尚章爾雅曰昭陽 3 60左	如林切(爾雅) 大歲在—曰玄默 2 482右	息鄰切(爾雅) 大歲在—曰重光—曰昭陽 1 400左	古行切(字苑) —歲名商橫爾雅又名上章 2 270右	(爾雅) 歲在—曰屠維在—曰則 3 67右	莫候切歲在—曰徒維又曰著雍 4 411右	(爾雅) 月在—曰圉歲在—曰強圉 2 353左	兵永切歲在內名游兆爾雅曰柔兆 3 385左	於筆切 說文 象舂艸木冤曲而出(爾雅) 乙歲名旃蒙又云端蒙 5 119左

『下学集』「時節門」の漢籍典拠稿（片山）

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78
黄昏 <small>フワウコン</small>	晡時 <small>ホジ</small>	日昃 <small>テツ</small>	日中 <small>ムマ</small>	禺中 <small>グチウ</small>	食時 <small>シヨクシ</small>	日出 <small>ジユツ</small>	平旦 <small>ハイタン</small>	雞鳴 <small>ケイメイ</small>	夜半 <small>ヤハン</small>	亥 <small>カイ</small>	戌 <small>シュ</small>	酉 <small>トリ</small>	申 <small>サル</small>	未 <small>ヒツシ</small>	午 <small>ム</small>
戌五時	申七時	未八時	午九時	巳四時	辰五時	卯六時	寅七時 <small>キ</small>	丑八時 <small>キ</small>	子九時 <small>キ</small>	本淵猷 <small>エンケン</small>	闍茂 <small>エンモ</small>	作噩 <small>サクカク</small>	涪灘池昆切 <small>キウタン</small>	協洽 <small>ケウカウ</small>	敦牂 <small>トシヤウ</small>

午 — 歲名敦牂 3 173 左

未 爾歲在 — 曰協洽 4 72 右

申 先人太歲在 — 曰涪灘 1 44 左

酉 與久切歲在 — 名作噩八月成熟 3 428 右

戌 歲在 — 曰闍茂 說文 冬至後三 — 曰臘 5 125 右

亥 故改切 說文 亥也歲名大淵猷 3 215 右

夜半 黃石公 — 援書與張良 李愬 — 平蔡賈誼 — 前席 鷄知將

旦鶴知 — (淮南子) 4 243 右

94 人定 ジンヂヤム 亥四時

95 日蝕 シヨク

96 月蝕 シヨク

97 望 バウ 每月十五日也此日月与日東西相望 オリノツキト
故云望也 ニフツト

98 晨朝 アシタ 二字義同 シ

99 噉旭 アサヒ 二字義同 シ

100 朝陽 アサヒ

101 曛 イユフヒ 夕日也

102 暁 アカツキアケホ 曙 二字義同 シ

日蝕 說文 敗創也 (漢書) 日月薄一 通作食 (易) 月盈則一 (春秋) 日有食之 (九三十六) ○又九物浸一 皆曰 5 328 右

望 ○(周禮) 鄉土 (注) 月六十六日望月小十五日望 4 355 右

晨 (書) 牡雞無一 (詩) 夜嚮一 (韓) 千年如隔一 (陸士衡) 大暮可一 ○
一星落落 1 404 右

朝 (語) 東帶立於一 (書) 江漢一宗羣后四一 (禮春官) 春見日一 ○ (漢紀) 吳王不一賜以几杖 2 65 右

噉 他昆切日始出 (九歌) 一將出兮東方 1 499 右
旭 吁土切日且出貌 (詩) 一且始且又一一驕蹇貌 5 62 右

陽 與章切 說文 日爲大一 (記) 天秉一 (禮運) (詩) 春日載一七月續山
東曰朝一山西日夕一又山南水北曰一十月爲一月 2 174 右

曛 日入餘光 1 461 左

暁 馨晶切 說文 明也 (薛廣德傳) 一人不當如是耶續曙也知也開諭也
3 286 右

曙 日也鄧攸去郡人歌曰統如打五鼓雞鳴大欲一 4 84 右

- 103 夙ソツ 早也
- 104 宵ヨシユク 夜也
- 105 稔トシ 穀熟也古人謂一年為一稔取穀一熟シム音枕ハ
- 106 上澣ウヘノハ
- 107 中澣ナカノハ
- 108 下澣シモノハ
- 109 提月テイゲツ 公羊傳提月六鷁退ケキシツキトフ飛注提月晦日也
- 110 翌日ヨク 次日也
- 111 疇昔チウセキ 昨日也
- 112 輒時テウジ 只今義也書礼返報之畢書之ノヲワリニ
- 113 迺時ナイツ
- 114 迺刻ナイツ 二俱同上義与乃同字也ナイ
- 115 寒暑カンシヨ 冬夏義也
- 116 庚申コウシン 此夜盜賊行トウゾクヲコナフニ事有利故諸人不眠シテ而守ネフラ夜也或說云此夜夫婦行フイシラ媯則其所ハラム妊之子必作ス盜故夫婦所ツツシム慎夜也思之

夙 說文 早敬也（詩）祈年孔—— 5 48 左

宵 說文 思邀切 說文 夜也（略） 2 62 左

稔 說文 如甚切 說文 穀熟也又豐也古人謂一年為 3 454 右

澣 亦作浣 說文 濯衣也（詩）薄——我衣服——濯之衣○石建自——親中裙

廁諭 ○上——中——下——謂上旬中旬 3 247 右

提月 ——六鷁退飛（公羊）晦也 5 143 右

疇昔 ——之夜（記）猶言昨日也 5 282 右

申 夫人切太歲在——曰涖澣 ○三尸庚——日亥人過於帝 1 414 左

117 一紀 十二年云一紀也

118 矚 日欲出也

119 曦 日光也

120 日没 日入時分

121 黎明 早朝也

122 望月

123 五月

124 弓張月 半月也弦月

125 豹尾 曆例云豹尾計都星之精黃幡對向之方也故黃幡在辰方豹尾在戌方相對也餘歲亦尔也

亦尔也

126 黃幡 曆例云黃幡羅睺星之精也

127 歲德 陽德陰德

128 歲 夏代曰歲

129 祀 殷代曰祀

130 年 周代曰年

兩紀 自足支——(韓) 十二年爲一紀取歲星 366右

矚 日出貌又瞳——日欲明 144右

曦 日光 112右

黎明 將明之時亦作犁 228左

望 ○(周禮) 鄉土(注) 月大十六日望月小十五日望 435右

歲 相銃切木星——星一年行一次而四特功畢故夏以——爲年(詩) 何以辛

歲 4136右

祀 (書) 葛伯不——370右

商祀 ——謂年曰——取四時祀事一終也(爾雅) ○惟三祀(書太甲) 370右

131 朞トシ 周代曰朞

132 載トシ 唐代曰載

133 知死期チシキ

134 朞サヤケシ

135 白駒ハクク 日之名

136 柘シヤ 日之異名

137 良辰 吉日云良辰也

138 天中節セツ 五月五日午時

139 二十四氣

140 立春リツシン 正月節

141 雨水ウスイ 正月中

142 驚蟄ケウチツ 二月節

143 春分シンブン 一月中

144 清明セイメイ 三月節

145 穀雨コクウ 三月中

146 立夏リツカ 四月節

147 小滿マン 四月中

148 芒種ホウセウ 五月節

朞 周年（書）——三百有六旬六日通作期（語）——月而已（中庸）不能

——月守也 182右

163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149
大寒	小寒	冬至	大雪	小雪	立冬	霜降	寒露	秋分	白露	處暑	立秋	大暑	小暑	夏至
十二月中	十二月節	十一月中	十一月節	十月中	十月節	九月中	九月節	八月中	八月節	七月中	七月節	六月中	六月節	五月中